
新しいモノ

maki

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新しいモノ

【Nコード】

N1721T

【作者名】

mak i

【あらすじ】

ラルーはとてもいい子。誰の言うことにも逆らわないとてもいい子なのですが……

中学生の頃にノートに書いていた小説が見つかり、いろいろと編集して投稿してみました。

「ラルー、こっちおいで」

ラルーはお父さんの言うことをよく聞きます、お父さんがラルーにそう言う時、ラルーはお父さんの膝にボンと飛び乗るのです。

「何かしらお父様」

お父さんの前でのラルーはとってもいい子です、聞き分けが良く素直な娘です。そしてお父さんの膝の上はラルーの特等席です。

「ラルー、お母さんは明日にでも帰ってくるそうだよ」

ラルーのお母さんはラルーの妹を産んでからすぐに体調を崩し、そのままラルーの妹を出産した病院に一ヶ月ほど入院していました。大好きなお母さんが帰ってくると知ったラルーは大喜びです。

「ほんとう！？ 私すごく嬉しいわ！」

ラルーはお父さんの膝の上でピョンピョンと跳びはねます。大好きなお母さんがまだ見ぬ妹を連れて帰ってくるなんて……ラルーにとってこれほど嬉しいことはありません。

「父さんはね、ラルーのことを偉いと思っているんだ。お母さんが入院してからの一ヶ月間、ラルーは一度としてぐずることもなければワガママを言うこともなかっただろう？ よく父さんの言う事を聞いて、いい子にしてくれたね」

お父さんはラルーの頭を優しい手つきで撫でます。ラルーは嬉しそうに目を細めながら誇らしげに言いました。

「私さみしかったけど平気だったわ。だってカーシュがずっと私の側にいてくれたんだもの！」

カーシュというのはラルーのお気に入りの人形です。カーシュはラルーのお父さんになわれてからもうだいぶ経つのでずいぶんと汚れています。新雪のように白かった頬は蓄積されていった手垢で黒ずみ、フワフワだった栗色の髪の毛はバサバサとしていて泥のようです。それでもラルーが新しいお人形をおねだりすることは一度もありませんでした。

「ラルーはカーシュが大好きなんだね。パパはラルーがいい子にしていたご褒美にラルーとカーシュに新しいお友だちをプレゼントしようと思っているんだ」

「お父様、それは新しいお人形をプレゼントしてくれるってこと！？」

ラルーの瞳がパアツと輝くのを、お父さんはとても嬉しそうにニコニコと笑って眺めていました。

「ああ、もう実は注文しておいたんだ。綺麗なブロンドヘアーにビーズで刺繍されている水色の素敵なおドレスを着たとってもかわいい女の子だよ。首の後ろについているボタンを押すとおしゃべりするんだそうだ」

「まあ、なんて素敵なの！ お父様ありがとう！」

ラルーはの歩父さんの胸に飛び込み、頬ずりして嬉しさを全身で

表現します、とってもかわいい愛娘のラルーの愛らしい仕草にお父さんの頬は緩みっぱなしです。

「さあ、お母さんが帰ってくる頃にはお人形も家へとやってくるはずだよ。明日を楽しみにしながら今日は眠りなさい」

「お父様、なんだか私、今日はウキウキして眠れそうにないわ!」

そう言いながらもおりこうなラルーはお父さんの言いつけ通りに二階の寝室へと上がっていきます。

「おやすみなさい、お父様」

「おやすみ、ラルー」

ラルーは小気味のいいリズムで階段を駆け上がっていきます。二階に上がったラルーは階段の上からもう一度お父さんにおやすみのあいさつをしました。

「お父様、おやすみなさい!」

「ああ、おやすみ」

ラルーはお父様の返事を聞いてから自分の部屋のドアを引きます。フリフリのレースがたくさんついているカーテンやピンクを基調とした置き物の数々、そんな部屋の中央には不釣り合いなくらいに薄汚れたお人形がコロンと横たわっています。

「ウフフフ……」

ラルーは先程までお父さんに見せていた愛らしい笑顔とは全く違う何かを企んでいるような表情で笑いました。

「カーシュ！」

ラルーはいきなり薄汚れたお人形……カーシュの腕を掴むと力任せにブンブンと振り回し始めます。普通の人形ならばあっさりと腕が引っこ抜かれてしまはずなのに、カーシュはとても頑丈なお人形のため、ラルーの息があがるくらいに振り回されてもカーシュが壊れることはありませんでした。

「ハア、ハア……なら、これで……！」

ラルーはカーシュを放り出すと箆笥をかき回します。箆笥の中からはラルーがお父さんの部屋からこっそりと持ち出していた小振りなナイフが取り出され、ラルーはしっかりとそれを握り込みます。

「カーシュ……明日から新しいお人形がお家にやって来るのよ。薄汚れているカーシュなんかよりもずっときれいでかわいくて、おしやべりすることもできるのよ」

ラルーはナイフを握ったまま、妖しく瞳を輝かせながらゆっくりと横たわっているカーシュに歩み寄ります。

「だから、カーシュはもういらないの……本当に、今までずっとカーシュを見ていただけでみじめで不機嫌になっちゃうの！ だから、汚いカーシュはもういない」

ラルーはしっかりと幾重にも剩れているカーシュの肩の関節にナイフを当て、丁寧にカーシュの関節を繋いでいる糸を切断していきます。

「ウフフ……ウフフフ……」

ラルーの静かな笑い声がぼんやりと室内に響いている中、カーシユの腕が体から離れました。

「キャハハハッ！　ただでさえみすばらしかったのにますますみじめになってしまったわね！」

一回でコツを掴んだのか、ラルーは要領よくカーシユの四肢を切断していきます。

最初は右腕、左腕、右足、左足……しばらくは切断された四肢を細かく刻んでいたラルーでしたが、それさえも細切れにしすぎてこれ以上小さくカットできないくらいに小さくしてしまうと、カーシユの頭部と胴体をギュッと掴みました。

「アハハッ！　無様ねえ、まるでイモムシみたい！」

ブツッ、ブツッ、とカーシユの首と胴体を繋いでいる糸が千切れていきます。もうしばらく引つ張られ続けていたら、カーシユはイモムシどころではなくなってしまうことでしょう。

そんなことも全くお構い無しで、ラルーはカーシユの首から胴体を強引に引き千切ってしまいました。

「アッハッハッハッハッハア！　カーシユ、あなたはもうお人形じゃないわ！　手足はバラバラで、頭も体から離れてしまって、ほーら！」

ラルーは近くにあった窓を乱暴に開け放ち、カーシユの首を窓の外へと投げ捨ててしまいました。宙を舞っていたカーシユの首は闇

夜の中でしたら月光に照らされて妖しく輝いていましたが、すぐにラルーの視界からその輝きは消えてなくなり、下の方からトサツという音が聞こえてきました。

「フフフ……さようなら、カーシュ」

ラルーは一言そう言ってぴしやりと窓を閉めました。

「ああ、新しいお人形にはどんな名前をつけようかしら……明日が本当に待ち遠しいわ！」

ラルーが落ち着きなくソワソワと部屋の中を歩き回っていると、下の階からドアが開くような音が聞こえました。

「ラルー、お母さんが予定より早く帰ってきたよおー」

ラルーはお父さんの声を聞くやいなや、ドアを開けて急いで階段を駆け降りていきます。下の階には生まれたばかりのラルーの妹を抱いているお母さんがニコニコと、入院前と全く変わらない笑顔で顔に貼り付けて立っていました。

「お母様、おかえりなさい！」

「ただいま、ラルー」

お母さんはそう言って、右手に握っているラルーの小さな体など容易に切り裂けてしまいそうなくらいに大きな鉈を振り上げ、変わらない笑顔にラルーに言いました。

「新しい子どもができたから、もうラルーはいらないの」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1721t/>

新しいモノ

2011年5月23日09時16分発行